

今月号はいつもより長い記事が多くなつてしまった。その一つはお茶の水女子大学のキャンパス内の樹木についての座談会である。講堂の建物に沿って植えられてゐる緑の樹木はどれも同じように見える普通の木であるが、意図して違つた種類が植えられていること、図書館のわきには楷の木という中国の聖木が植えられており、それは旧約聖書の聖木モレの

テレピンの木と同系に属すること、幼稚園の藤の古木は震災で焼けたお茶の水の園舎からもつてこられたことはよく知られているが菩提樹が何本もあること、グランドにはくぬぎの大木があつて、瞑想の木として女高師の生徒達に親しまれてきたことなど、ふだんあたりまえのように見ている樹木が、それぞれの歴史をもつてそこに根を張っていることにあらためて気付かされる。お茶大とかぎらず、どこの幼稚園、学校にも、よく見れば樹木の発見があるのではないだろうか。樹

木はそれが見てきたであらう歴史を考えさせるし、また、新たな樹木を植えることは新しい歴史を開くことでもある。

もうひとつは幼児の教育復刻懸賞記念論文の掲載である。本誌は周知のように明治三十四年（一九〇一）に創刊されたが、最初の五十年間分の復刻がこのほど完成し、これによって幼児教育の先輩たちの息吹に直接ふれることができるようになった。動乱の現代に、幼児教育の本質を誤まることなく将来を考えてゆく上にも、本誌の復刻は意義あることと思つてゐる。懸賞論文で優秀賞に選ばれた、金子真知子氏の論文は本誌創刊直前の時期の関西保育界におけるハウ女史に関する研究である。ことは保育大会開催日についての小さなできごとであるがこれは現代の幼稚園の公私立の根本を考えさせてくれる。

（津守）

幼児の教育 第八十一巻 第十号

十月号 © 定価二七〇円

昭和五十七年九月二十五日 印刷

昭和五十七年十月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

●本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良品がございましたら、おとりかえいたします。